

モデル事業名	地域の自然・文化資源の活用による観光情報提供ネットワークづくり事業
活動団体名	まちの駅ネットワークかぬま
ホームページ	団体独自のHPは無い。市HPのなかで紹介⇒ www.city.kanuma.tochigi.jp/
所属/ 担当者名	まちの駅ネットワークかぬま / 相談役 福田義一、庶務 井上玉枝
連絡先	鹿沼市経済部 0289-63-2181 y01fukuda@city.kanuma.tochigi.jp
活動地域	栃木県 鹿沼市 全域

● 活動地域の概要

- 栃木県の県央西部。北は日光市、東は宇都宮市に隣接。
- 面積 約490平方km²。その約7割が森林。
- 人口 103,278人。高齢化率22.2%。世帯数 35,018。
- 鉄道 JR日光線（鹿沼駅）、東武日光鬼怒川線（新鹿沼駅他）
- 道路 東北自動車道（鹿沼IC）、国道121, 293, 352号線が通る
- 鹿沼土とさつきに代表される園芸、いちご、ニラ、和牛など全国有数の生産を誇る作物を持つ農業、良質材を生む林業、4つの工業団地をもち、木工、機械、金属などが地場産業。彫刻屋台、川上澄生美術館、温泉、高原や湿原などの観光資源が豊富。



位置図



平成20年度モデルツアー



市内のまちの駅

● 活動地域の課題

- 20年度のモデル事業で、おくのはそ道関連の史跡や高村光雲のゆかりの地、映画ロケ地などの小さな新観光資源を発掘した。また、鹿沼市では、首都圏はじめ全国への観光情報発信と誘客に力を入れるため、21年度に「観光交流課」を設置した。市民が自主的に設置する「まちの駅」の数は日本一を誇る。

○こうした中で、「鹿沼ファン」をはじめ、実際に誘客を図るためには、市民のかぬマニア（情報発信ボランティア）やまちの駅の駅長などが、観光案内を適切に行えるよう、その資質を高める必要がある。

○また、20年度のモデル事業で3回のツアーを実践したが、観光客のニーズに応えるため、さらに多様なまち歩きコースなどを作っておく必要がある。また、継続的なバスツアーやまち歩きツアーの実施主体やマニュアルの確立についても検討する必要がある。

- 20年度、鹿沼ファンを約100人応募があったが、継続募集により拡大を図る必要がある。

● 活動の内容＜平成20年度＞

市民（グループ）がそれぞれ関心の高い分野で役割を担いながら、自然・文化資源の発掘とその活用とPRを図り、特に観光情報として市内外に受発信するシステムを構築した。

新たな共助のコミュニティの担い手となる鹿沼を好きな市民「市内かぬマニア＝情報発信ボランティア」と鹿沼を好きな市外（首都圏等）住民「市外かぬマニア＝かぬまファン」を公募。／市内観光施設のメンテナンススポットや回遊ルート（歴史探訪ルート等）とおもてなしスポットの発掘及び活用法の検討。メンテナンスやおもてなしの方法と必要な施設整備の検討、情報受発信やメンテナンスをボランティアで実践するための手法の検討検証をワークショップ形式で実施。／お勧めスポット等を記載したマップの作成し、Webで観光情報を鹿沼ファンに提供できるシステムの構築、／「かぬマニア研修会」等の開催。／市内内外の「かぬマニア」の交流促進イベントの実施…などを推進しネットワークを拡大を目指した。

・平成21年度

20年度のモデル事業で行った新たな観光情報発掘、鹿沼ファンへのメール配信による情報提供システム構築、まちの駅情報マップなどを活かし、鹿沼ファンを案内するための案内人研修会とそのグループづくり、観光モデルコースを設定してイベントに合わせた観光案内及び鹿沼ファンの拡大募集などを実践した。

● 活動の成果<平成20年度>

- ・市内の「まちの駅」、ボランティア団体（レクリエーション協会など）、市外民間団体（足立区のNPOなど）が連携、協働してモデル事業（モデルツアーなど）を行った。今後もその関係を保ちながらさらなる事業展開が期待できる。
- ・市外の「鹿沼ファン」のロコミ、リピーター化による堅実な観光振興を期待できる。
- ・官民協働で情報提供システムが構築された。
- ・「鹿沼ファン」を対象とした交流イベントモデル事業を3回実施したことで、今後多くの観光客を呼ぶモデルケースを体感できた。



交流イベントにて
木のふるさと伝統工芸

・平成21年度

○研修会の開催

- ・まちの駅関係者、観光案内ボランティアなどを対象とした、鹿沼の観光やおもてなしに関する研修会を開催した。参加者が鹿沼を再認識し、鹿沼に対する知識を深め、おもてなしの能力を高めることで、まちの駅関係者などが、鹿沼の観光案内人としての資質を高めることができた。

○実践のためのコースづくり

- ・「芭蕉ゆかりの地をめぐるツアー」市民主体のイベント時(楽市)のモデルツアーを実施した。
- ・まちの駅全国大会において、全国大会参加者を対象とした「まちの駅めぐりツアー」を実施した。モデルコースの選定はまちの駅関係者及び情報発信ボランティアが行い、当日のガイドはまちの駅関係者及びボランティアが行った。全国各地からの多くの参加者に、鹿沼の魅力に触れていただくことができた。
- ・これらにより、さらに多くの鹿沼ファン獲得につながった。また、コース選定やモデルツアーの実施により、市民が実際に活躍することができ、市民のモチベーション向上、スキルアップにつながった。
- ・モデルツアーで参加者から好評を得たことで、参加者のリピーター化を見込むことができたと同時に、おもてなしをする市民の自信にもなった。特に準備の段階から関わった多くの市民の間では、自らが鹿沼の魅力を再発見するだけでなく、積極的に鹿沼の魅力を発信していくきっかけとなった。

○鹿沼ファンの募集拡大・交流会の開催

- ・まちの駅全国大会の場で、鹿沼ファンの交流会を開催した。
- ・首都圏でのイベントなどの場で鹿沼ファンの募集を行った。（平成21年12月の段階で144名が登録）



研修会の様子



観光モデルツアーの様子



観光モデルツアーの様子



交流会の様子

● 今後の課題及び展望

○課題

- ・モデルコースが設定され、バスツアーなどの観光ツアーも可能であることが実証されたが、今後、継続して開催する際は、民間の観光業者や市民団体に、今回の事業によるモデルコース等を提供して実施してもらうことが重要。現時点では、ツアーの継続実施のプランは明確になっていない。また、鹿沼ファンなどによる自由な観光を支援する仕組みづくりが不十分であった。今後は、鹿沼市において新たな公の役割を果たしている「まちの駅ネットワークかぬま」等を中心に市民と行政が協働して、本事業によって構築された観光情報発信の効果を最大限発揮できるような、現地での情報提供やおもてなしの受け皿づくりを進めていく。

○展望

- ・今後も「鹿沼ファン」の拡大とファンへの観光情報を継続することができる。
- ・市では、「まちの駅」の支援を継続し、中心市街地に新たな観光交流拠点「まちの駅“新・鹿沼宿”」整備を進め、鹿沼市観光計画やサイン計画を策定し、既存観光施設の改修をすすめるなど、観光振興基盤の充実に努めている。
- ・観光情報発信システムやモデルコース等を充実し、「まちの駅」と行政、観光物産協会、さらに、今回の事業で関係を構築した市内外のNPOなどを含めて、様々な連携により誘客事業を展開し、市民がおもてなしの心で全国からの多くのファンを迎えられる「笑顔あふれるやさしいまち鹿沼」の創造を目指す。